



株式会社エディオン

2024年3月期 第2四半期決算説明会

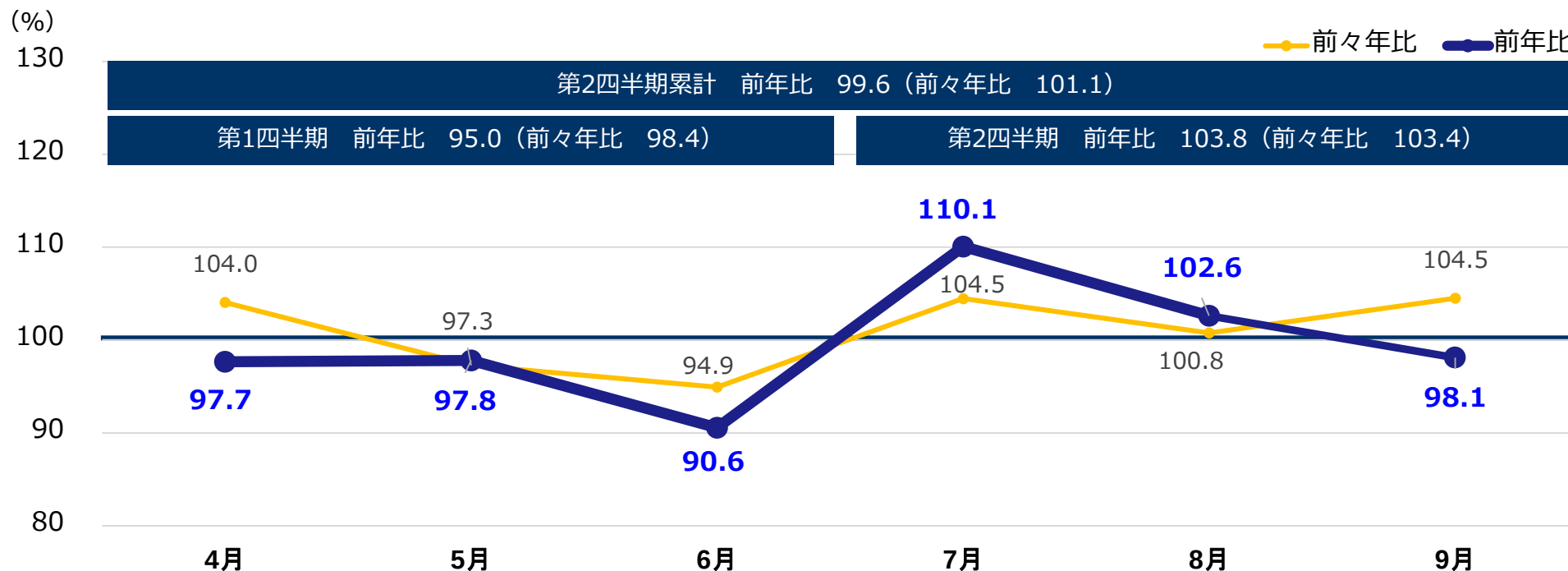
2023年11月2日

- 1. 第2四半期 実績報告**
- 2. 業績予想および重点ポイントについて**

第2四半期 実績報告

上期振り返り

全店前年比 (POS受注ベース)



総 評

■ 第1四半期 前年比 **95.0%**
前々年比 98.4%

■ 第2四半期 前年比 **103.8%**
前々年比 103.4%

・前年はロックダウンによる在庫懸念報道や早期梅雨明け報道による季節商品の早い動き出しで高いハードル

・7月、8月とエアコンが売上を牽引
統計開始以降、類を見ない高温を記録する酷暑が生活にも影響

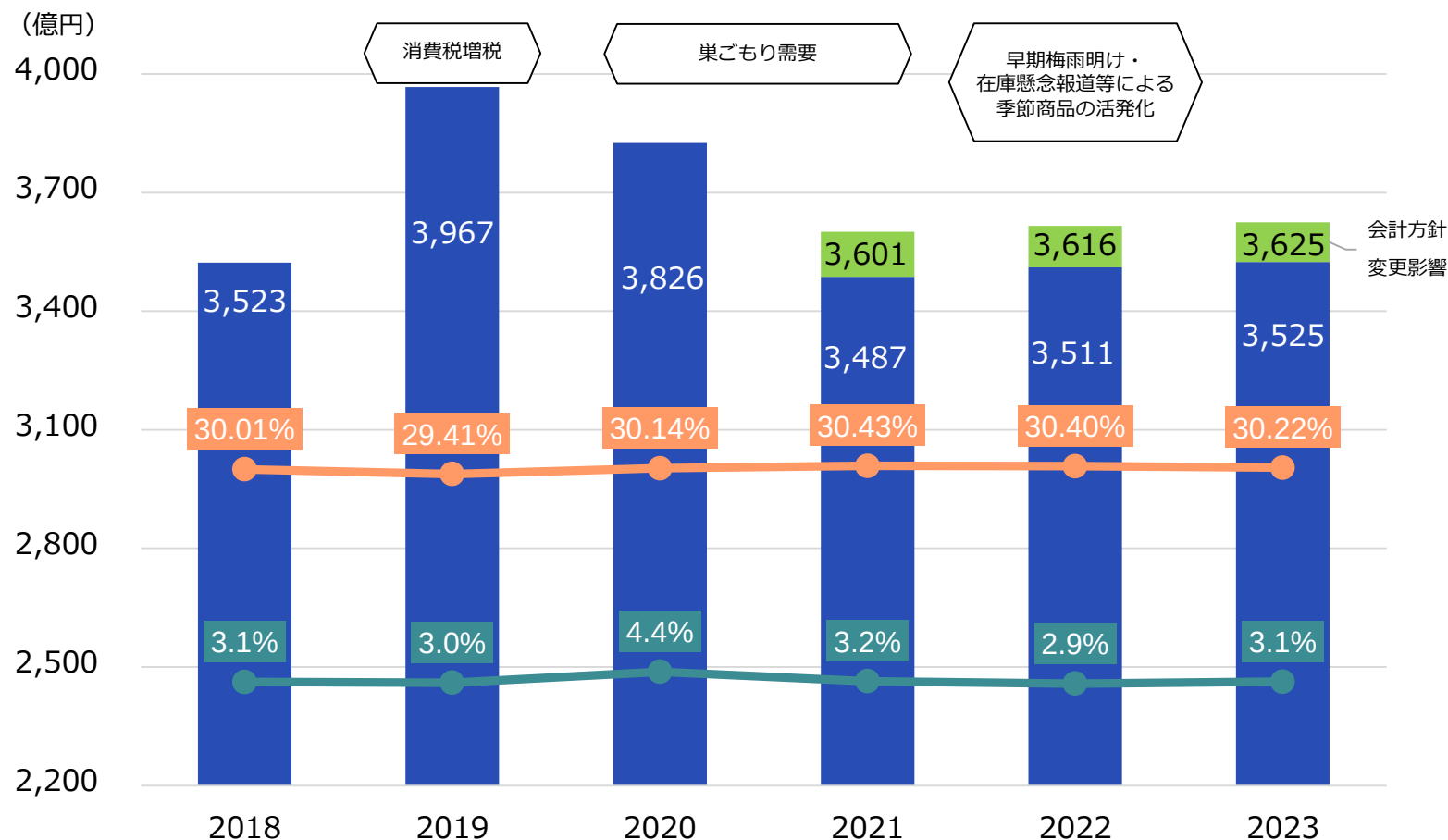
■ 上期累計 **99.6%**
前々年比 101.1%

・2023年度上期は、国内経済においては食品や光熱費関係の物価上昇が個人消費に影響
コロナ禍の終息に向けて行動制限が撤廃され、経済社会活動の正常化に向けた動きが加速

連結損益計算書

百万円・%	2023年3月期 2Q累計			2024年3月期 2Q累計			
	売上比	実績	前年比	売上比	実績	前年比	前年増減
売上高		351,115	100.7		352,577	100.4	1,462
売上総利益	30.40	106,754	100.6	30.22	106,544	99.8	△209
販売管理費	27.5	96,421	100.3	27.2	95,765	99.3	△656
広告宣伝費・販売費	6.8	23,806	98.5	6.6	23,402	98.3	△404
人件費	11.3	39,645	99.6	11.2	39,497	99.6	△148
設備費・その他管理費	7.9	27,590	104.4	7.9	27,761	100.6	171
減価償却費	1.5	5,378	94.2	1.4	5,103	94.9	△274
営業利益	2.9	10,333	103.2	3.1	10,779	104.3	446
営業外収益	0.2	709	40.8	0.2	852	120.2	143
営業外費用	0.2	873	159.4	0.2	580	66.4	△293
経常利益	2.9	10,169	90.8	3.1	11,052	108.7	883
特別利益	0.2	535	193.6	0.0	141	26.4	△394
特別損失	0.1	235	83.0	0.1	395	168.3	160
税金等調整前当期純利益	3.0	10,469	93.5	3.1	10,798	103.1	328
法人税等合計	1.0	3,398	94.7	1.0	3,581	105.4	182
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.0	7,070	93.0	2.0	7,216	102.1	145

上期業績推移サマリ



売上高

3,525 億円
(会計方針変更前)
3,625 億円

売上総利益率

30.22 %

経常利益率

3.1 %

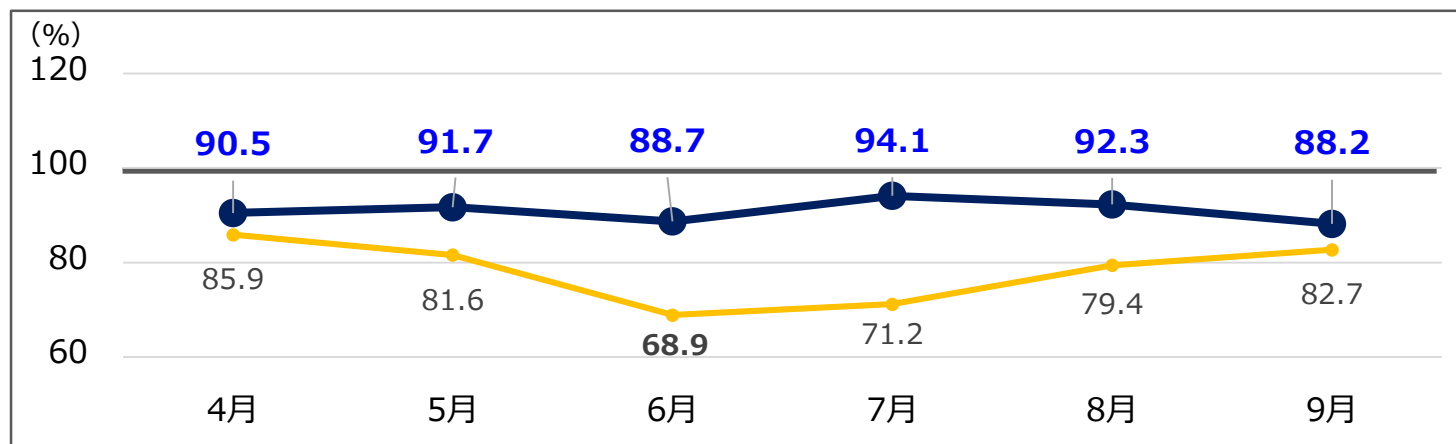
- 売上高においては、当年含む過去5か年では、消費税増税、巣ごもり需要時を除き伸長
- 売上総利益率 当期実績 30.22% 前期 30.40% と微減
- 販売管理費比率については 0.3% 圧縮し、経常利益率は 3.1% となった

主要商品別の状況① 商品別受注前年比（POSベース）

■前年比 ●前々年比

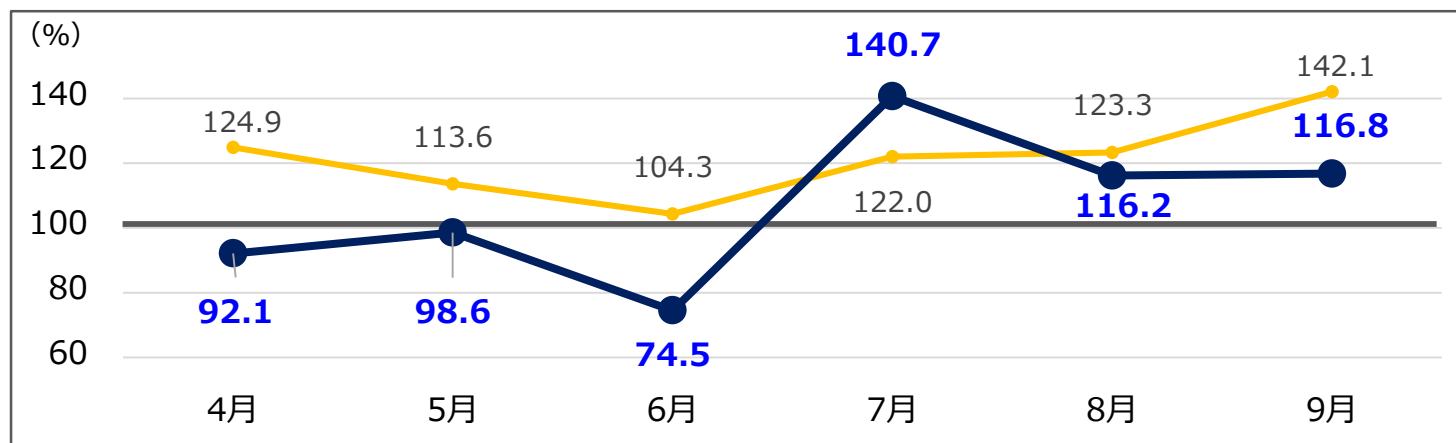
テレビ

第2四半期累計
前年比 90.8
(前々年比 77.4)



エアコン

第2四半期累計
前年比 105.5
(前々年比 119.3)



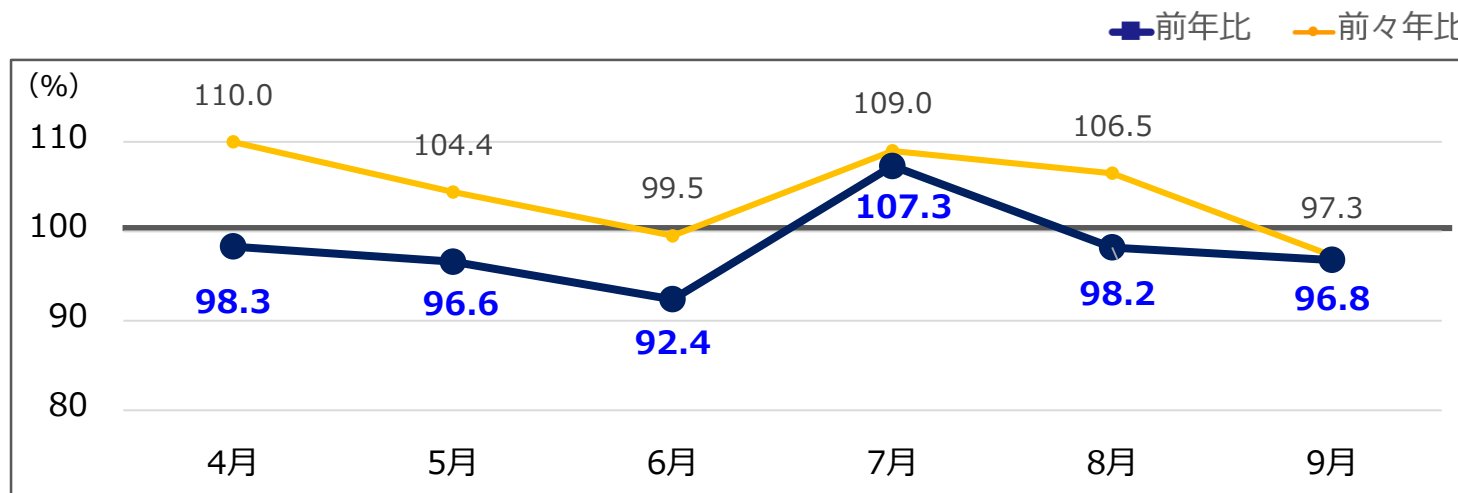
テレビ：東京オリンピック（2021.7）をピークに厳しい状況が続いているものの、大型テレビの需要増加、動画配信ニーズの高まりからコンテンツ契約者数が増加するなど需要は底堅い

エアコン：前年の4月～6月は異例の暑さにより季節商品の盛上りが前倒され、ハードルはあったものの夏商戦は好調に推移

主要商品別の状況② 商品別受注前年比（POSベース）

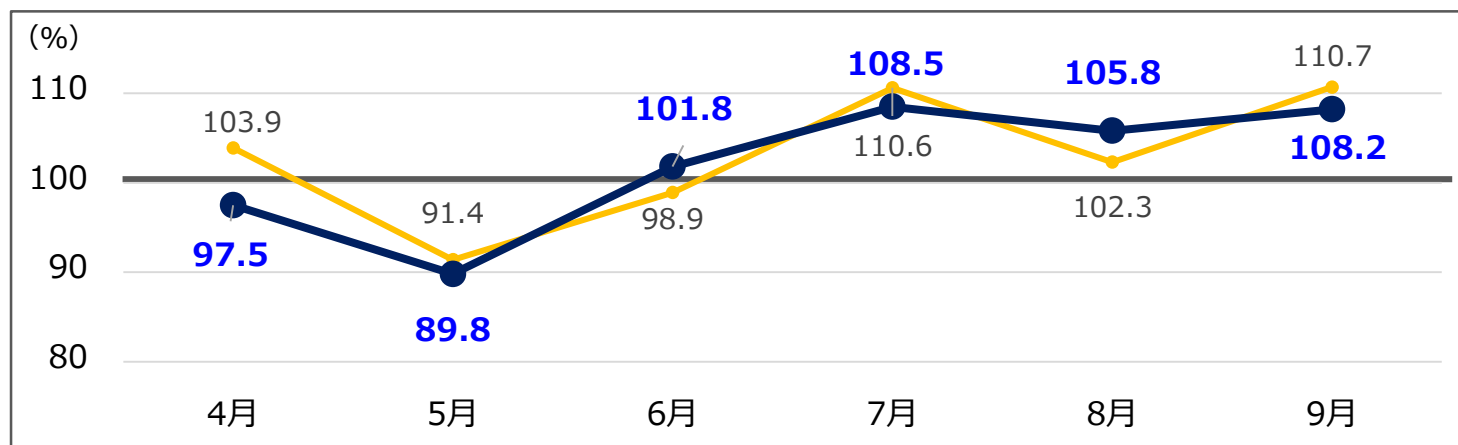
冷蔵庫

第2四半期累計
前年比 98.7
(前々年比 104.3)



洗濯機

第2四半期累計
前年比 102.1
(前々年比 103.1)



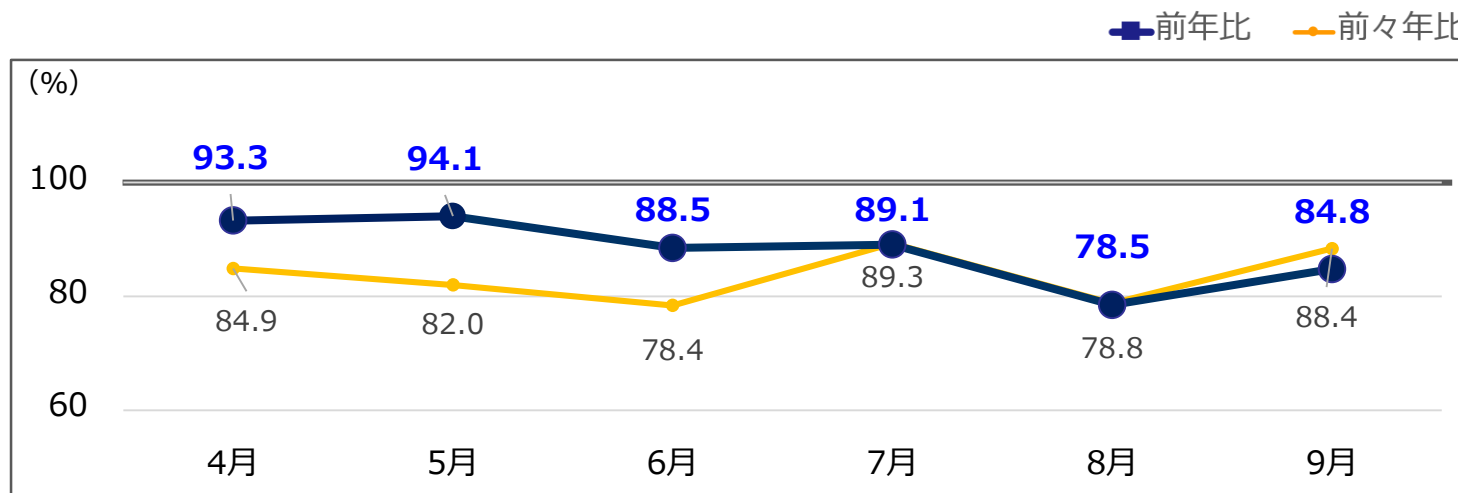
冷蔵庫：400から500Lの中型モデルが好調に販売され、買い替えニーズも底堅い

洗濯機：ドラム型や大容量縦型洗濯乾燥機の売れ行きが好調で全体を牽引した

主要商品別の状況③ 商品別受注前年比（POSベース）

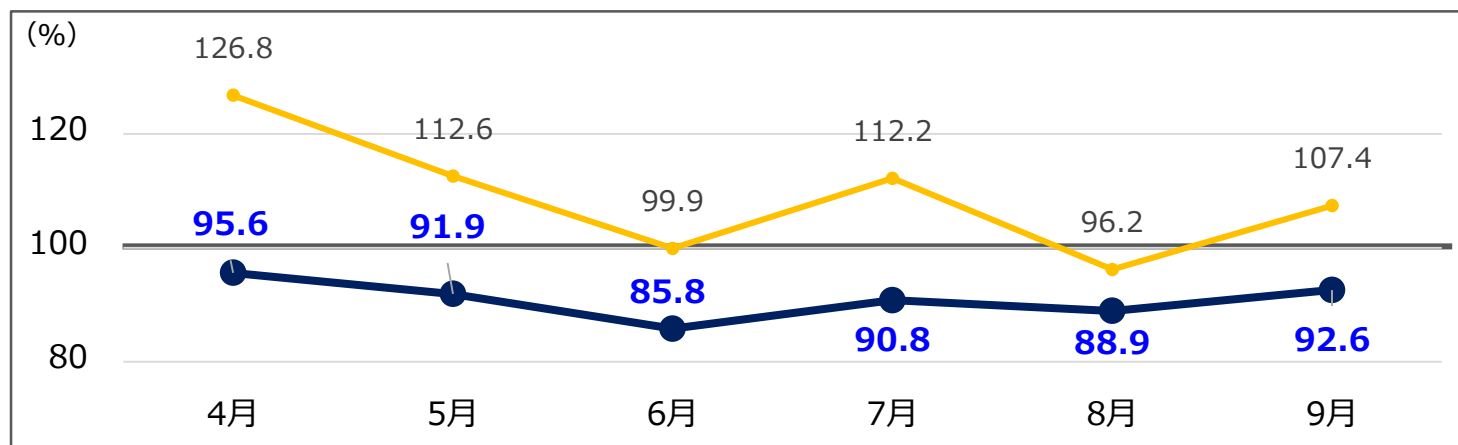
パソコン

第2四半期累計
前年比 88.1
(前々年比 83.9)



リフォーム (ELS)

第2四半期累計
前年比 91.0
(前々年比 108.7)



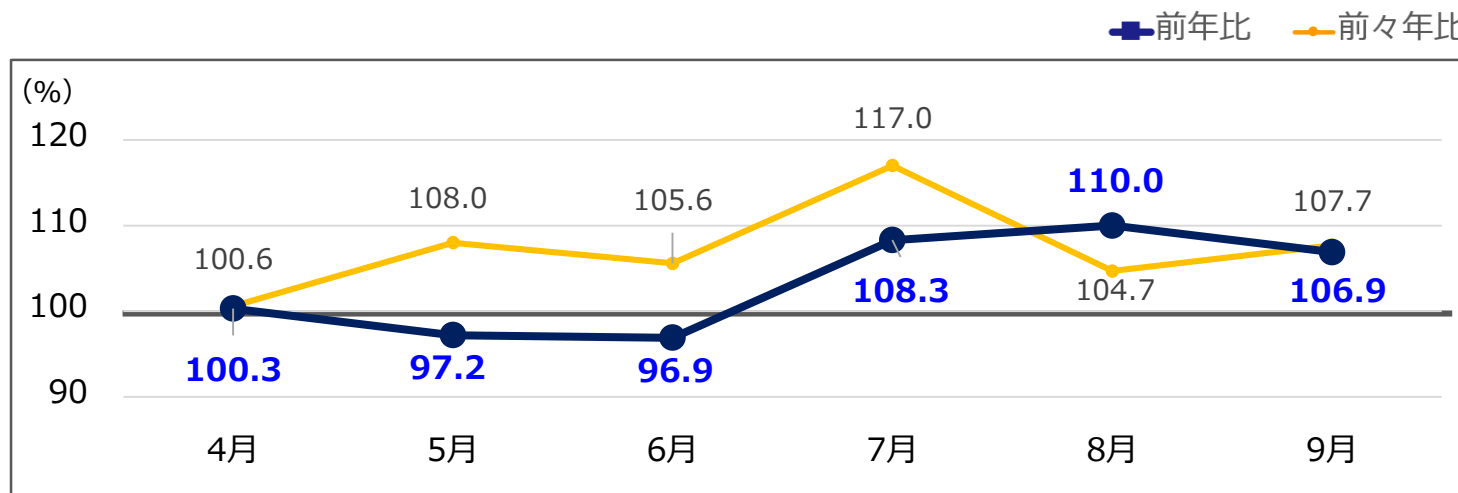
パソコン : Win8.1サポート終了による駆け込みなども一服しパソコン市場が低調。
eスポーツやVR、メタバースなどのニーズが増加することにより高性能なゲーミングPCに期待

リフォーム : 日本政府のリフォーム補助金施策が2022年11月に終了したため、その売上反動はあるものの
今期も堅実な実績となった

主要商品別の状況④ 商品別受注前年比（POSベース）

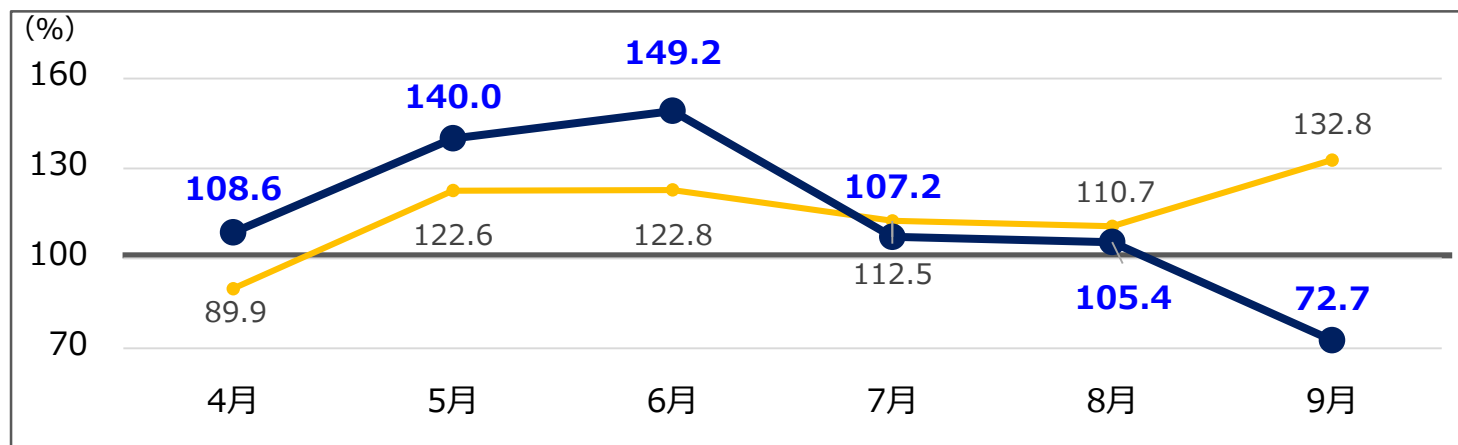
携帯電話（台数）

第2四半期累計
前年比 103.2
(前々年比 107.2)



(参考) ゲーム・玩具

第2四半期累計
前年比 108.0
(前々年比 114.2)

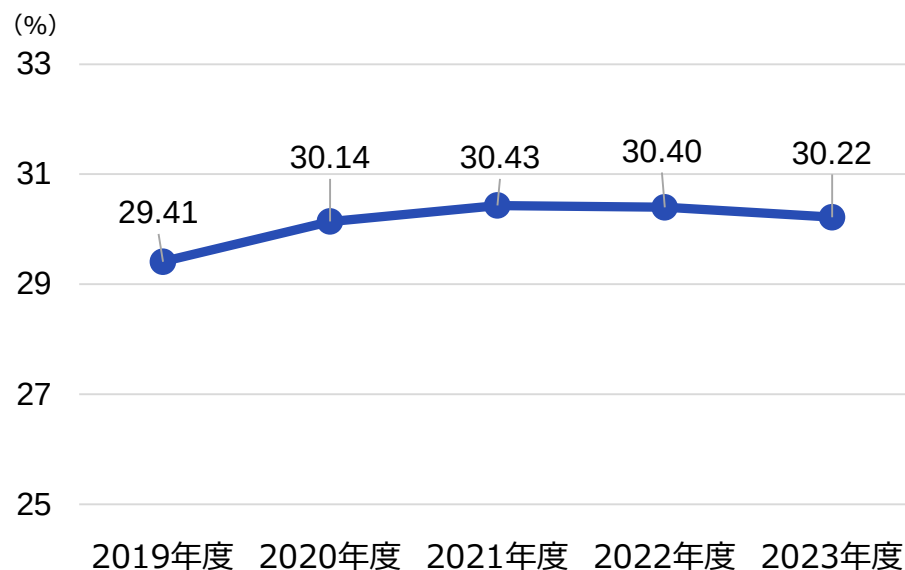


携帯電話（台数）：携帯電話は上期の台数前年比で103.2%と好調です

(参考) ゲーム・玩具：前年比108.0%と好調に推移。昨年9月は『スプラトゥーン3』が発売されており反動減

売上総利益率・販管費率の状況

1 売上総利益率



● 売上総利益率

当期実績 30.22% 前期 30.40% 前期差 $\triangle 0.18\%$

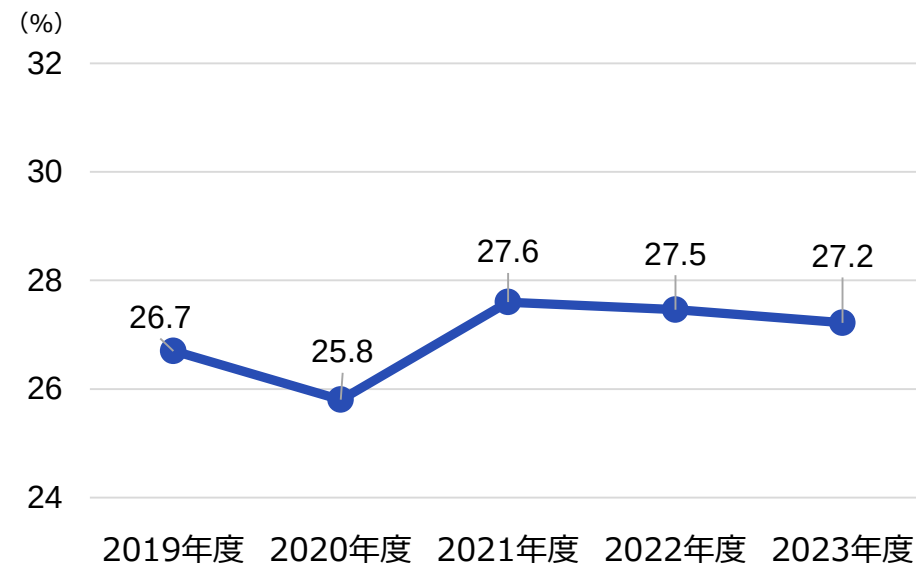
・第1四半期 30.13% 前期 30.71% $\blacktriangle 0.58\%$

前期は季節商品の動きが早かったこと、今期はゲーム関連品が盛り上がったことからやや微減となった

・第2四半期 30.29% 前期 30.13% $+0.16\%$

猛暑による季節商品の高まりもあり、ミックスで粗利は上昇

2 販管費率



● 販売費及び一般管理費

当期実績 957.6億円 前期差 $\triangle 6.5$ 億円

(連結調整 $\triangle 12.5$ 億円)

➢ 広告宣伝費・販売費 234億円 $\triangle 4.0$ 億円
(広告宣伝費 $\triangle 7.8$ 億円)

➢ 人件費 394億円 $\triangle 1.4$ 億円

➢ 設備費・管理費 277億円 $+1.7$ 億円
(光熱費 1.6億円 賃借料 2.6億円)

➢ 減価償却費 51億円 $\triangle 2.7$ 億円

連結貸借対照表および連結キャッシュフロー計算書

■ 連結貸借対照表

(百万円)

	2023年3月末	2023年9月末	増減
現金及び預金	13,235	17,325	4,089
商品及び製品	116,061	122,321	6,260
その他	56,442	45,959	△10,483
流動資産	185,739	185,605	△133
有形固定資産	122,126	122,102	△24
無形固定資産	9,746	10,163	416
投資その他の資産	51,753	51,750	△2
固定資産	183,625	184,015	390
資産合計	369,365	369,621	256
流動負債	107,841	109,432	1,591
固定負債	59,866	52,485	△7,380
負債合計	167,708	161,918	△5,790
純資産	201,656	207,703	6,046
負債・純資産合計	369,365	369,621	256

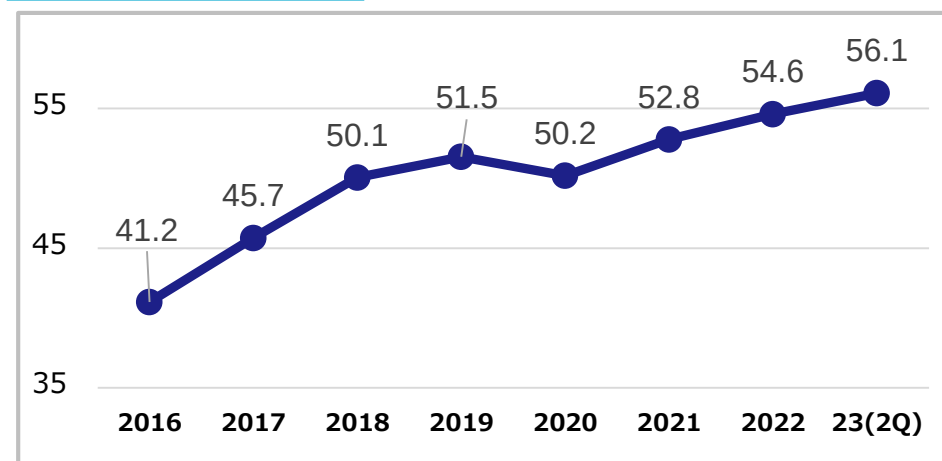
■ 連結キャッシュフロー計算書

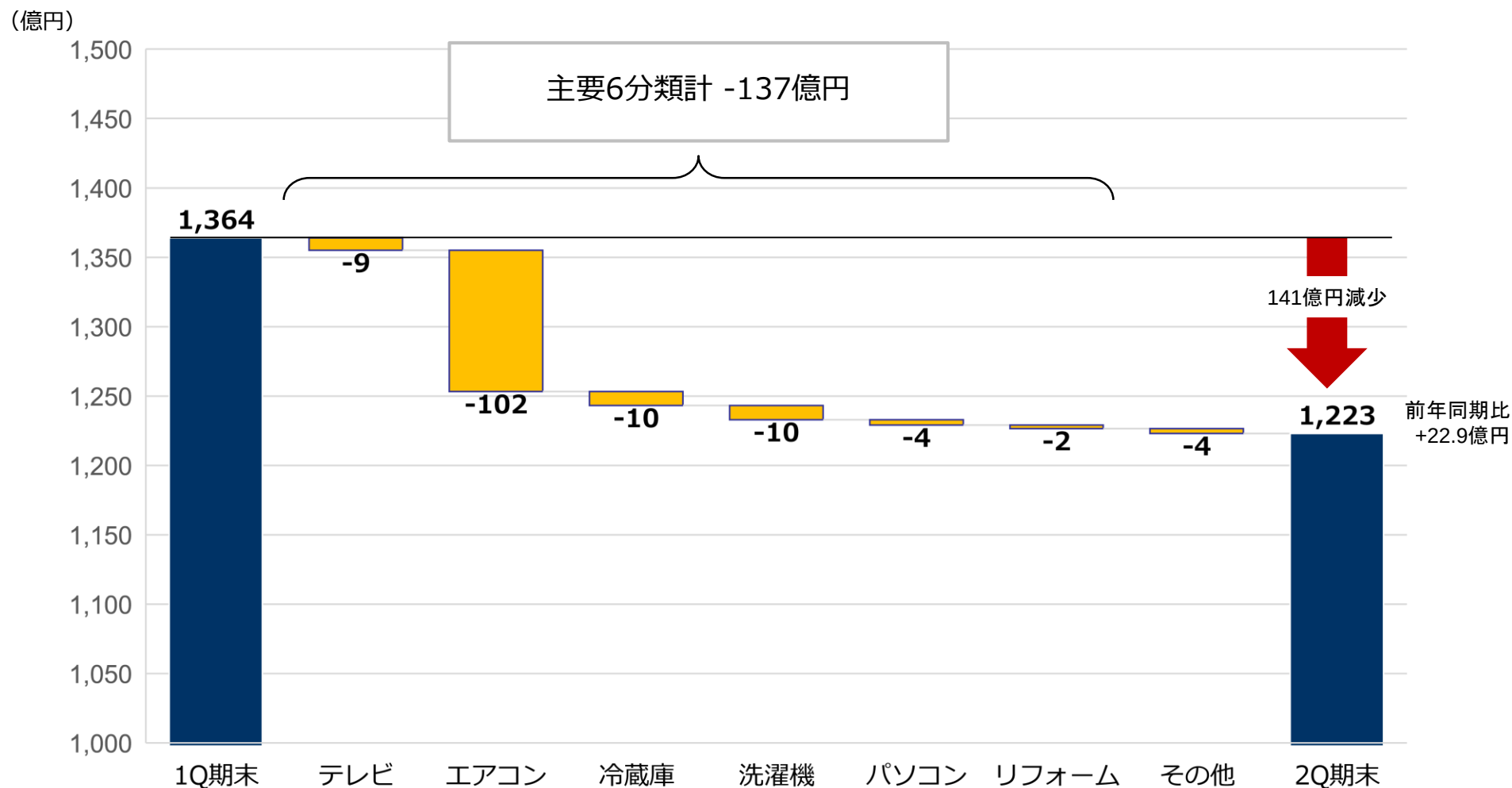
(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
営業CF	7,851	12,668
投資CF	△3,643	△5,131
FCF	4,208	7,537
財務CF	△3,836	△3,447
現金及び現金同等物の 期末残高	30,275	17,325

■ 自己資本比率

(%)





※ 1 億円未満を切り捨て表示しています

業績予想および重点ポイントについて

代表取締役 久保 允誉

連結業績予想

百万円・%	上期実績		下期予想		2024年3月期通期予想			
	実績	前年比	予想	前年比	売上比	業績予想	前年比	前年増減
売上高	352,577	100.4	392,422	106.2	100.0	745,000	103.4	+24,415
売上総利益	106,544	99.8	111,805	107.4	29.3	218,350	103.5	+7,473
販売管理費	95,765	99.3	103,084	108.2	26.6	198,850	103.7	+7,159
広告宣伝費・販売費	23,402	98.3	23,917	107.0	6.4	47,320	102.5	+1,162
人件費	39,498	99.6	41,002	103.4	10.8	80,500	101.5	+1,207
設備費・管理費	27,761	100.6	32,759	117.9	8.1	60,521	109.2	+5,145
減価償却費	5,103	94.9	5,404	98.5	1.4	10,508	96.7	△356
営業利益	10,779	104.3	8,720	98.5	2.6	19,500	101.6	+313
経常利益	11,052	108.7	8,447	93.0	2.6	19,500	101.3	+251
親会社株主に帰属する当期純利益	7,216	102.1	4,283	99.1	1.5	11,500	100.9	+106

通期予想に変更はありません

- 売上高 7,450億円（前年比 103.4%）※下期既存店前年比 103%
- 粗利率 29.3%
- 販売費および一般管理費 1,988億円（前年比 103.7%）

- 経常利益 195億円
- 当期利益 115億円

2023年10月1日 6本部体制

管掌取締役

久保 允誉

営業本部

新規事業展開、商品開発、マーケティング

eコマース本部

自社サイト運営、EC企画、商品開発

物流サービス本部

物流・サービスの事業拡大、ELS工事拡充

管掌取締役

山崎 徳雄

経営企画本部

総務人事本部

生産性向上、人材育成

管掌取締役

金子 悟士

IT戦略本部

DX推進・導入



上期前年比

110%

中期計画 年10%伸長

業界ナンバーワンの施工数目指しさらなる取り組み強化

■ 顧客サービスの拡充

2023年10月 修理窓口・受付体制を全店統一

受電率
向上

専門のオペレーターを
増員して配備

Webチャット
24時間対応

Chatbotの自動返信
専用LINEアカウント

年中無休
365日受付

故障を放置しない
迅速な対応



サービスレベルの強化 新予約システムも検討中

直感的に操作できる受付メニュー画面

チャット



WEBフォーム



訪問日指定



■ 豊富な製品ラインナップ

2WAYイヤホン



ポータブルアイスメーカー



卓上サーキュレーター



**P B 商品の開発強化とともに
バラエティや遊び、気づきに富んだ商品を数多くご用意**



缶専用クーラー



折り畳み衣類乾燥機



アンプ型冷蔵庫

■ 出店・移転・閉店実績および計画

RC			新設	移転・建替	閉鎖	増減	期末店舗数
2022年度実績		通 期	5店舗	3店舗	4店舗	+1店舗	450店舗
2023年度	実績	上 期	4店舗	5店舗	4店舗 (うち非家電2)	±0店舗	450店舗
	計画	下 期	5店舗	1店舗	-	+5店舗	455店舗
		通 期	9店舗	6店舗	4店舗	+5店舗	455店舗



ホームズ南津守店（2023年9月8日オープン）

店舗数（2023年9月末時点）
エディオングループ 1,209 店舗
 ■直営店 450店舗 ■フランチャイズ店 759店舗

■ 9時間営業店舗の増加

200店舗まで拡大

■ 既存店舗の塗装

40店舗実施予定

■ 出店計画：初の関東旗艦店『横浜西口本店』



広島県
蔦屋家電

2017年



大阪府
なんば本店

2019年



京都府
京都四条河原町店

2021年

2023年12月15日（金）

GRAND OPEN!



横浜駅西口の複合施設に登場
当社最大級の店舗で家電と遊びの新体験を実現

■ 脱炭素社会実現への取り組み

環境にやさしい店舗運営

直近オープンの2店舗で「**Nearly ZEB**」**認証を取得**いたしました。
これはZEB（=年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとする）に限りなく近い建築物として、
一次エネルギーの年間消費量を 75%以上削減できるものとして評価されているものです。



岐阜正木店（9月・岐阜県）



交野星田店（10月・大阪府）

- ・ 全国約70拠点の店舗・サービス拠点に太陽光発電システムを設置
- ・ 投資による脱炭素社会の実現をサポート（2022年カーボンニュートラルファンドへの投資）
- ・ 2022年度よりPPAモデルの活用促進
- ・ 自家消費型の推進による環境負荷軽減とエネルギー効率の向上を目指す

⇒ **「Nearly ZEB」認証店舗の拡大**

■ サステナビリティ経営の強化～社会課題の解決にむけて～

取り組み強化

1 循環社会への取り組み

循環型社会の実現に向け家電リサイクル法の対象である家電製品の適正な処理を行い、小型家電のリサイクルや発泡スチロールの再資源化などを積極的に取り組んでいます。認定事業者である子会社(株)イー・アール・ジャパンと連携しグループ一体となった回収体制を構築しています。また、多様な人材が活躍できる場を提供するなど様々な側面から社会課題解決に向けた取り組みを推進しています。



2 健康経営の推進

エディオンは従業員の健康を重視し、従業員の健康保持・増進に取り組んでいます。経済産業省および日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」において、取り組みが優良であると認定されました。



3 地域社会への支援

一般社団法人 障がい者自立推進機構が運営する障がい者アーティストの自立推進に繋がる活動「Paralym Art®」に賛同し、2021年9月よりオフィシャルパートナーとして協賛しています。本協賛を通じて今後も地域社会との協調を図り、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。



4 サステナビリティ推進委員会の設置

当社では、「お客様の豊かな暮らしを永続的に支える企業」でありたいという考えのもと、エディオングループの経営理念に基づいて当社の持続的な成長とすべてのステークホルダーの発展に資するため、サステナビリティに関する取り組みを推進しています。

なかでも気候変動に伴うリスクや機会は、事業戦略や財務計画に大きな影響を及ぼすものと認識し、サステナビリティ経営をグループ全社で横断的に推進するため、2022年6月にサステナビリティ推進委員会を発足しました。

■ 統合報告書2023の発刊



Integrated Report 2023
統合報告書 2023年3月期



詳細はコーポレートサイトを参照ください>>>

<https://www.edion.co.jp/ir/library/integration>

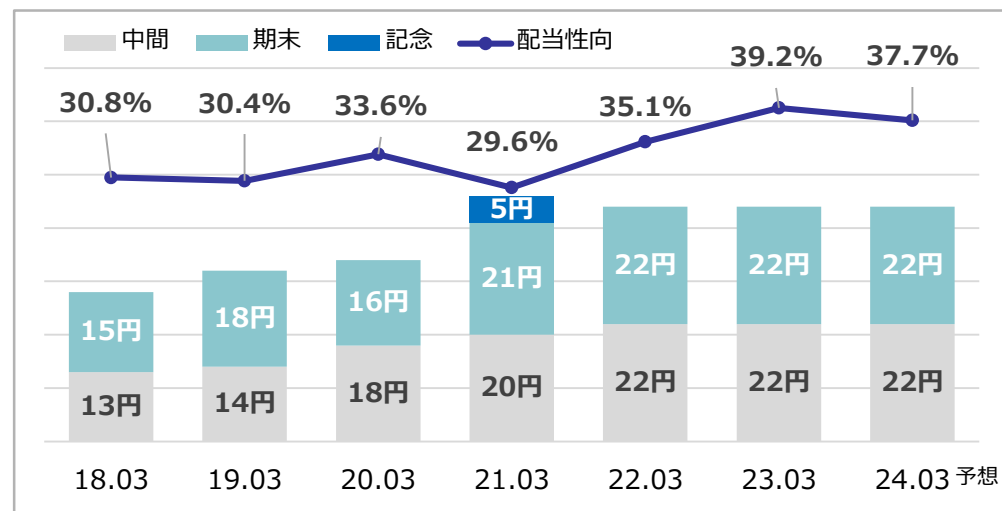
ROIC向上を指標に掲げ、資本効率の向上とともに健全なバランスシートの維持を重視します

1. 配当政策

株主への利益還元を経営の重要課題と認識しております。配当については、業績および経営環境等を総合的に加味し配当性向30%以上の安定配当を基本方針としています。

2. 自己株式の取得

資本効率の向上に資する株主還元策を前提に、業績・経営環境や投資および株価を含めた市場環境を総合的に考慮し機動的に実施します。



注意事項

- ・本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。
- ・本資料に掲載されている予測等については、様々なリスクや不確実性が内在しており、その正確性、完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
- ・本資料は、当社の事業内容、業績等の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ・本資料につきましては、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



2023年11月2日